

第4回奈良市みどりの基本計画策定委員会に関する意見の概要

開催日時	令和6年12月10日（火）午後3時から午後5時まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 601会議室
意見等を求める内容等	1. 計画素案について
参加者	出席者5人 ・ 事務局 12人
開催形態	公開（傍聴人0人）
担当課	都市整備部 公園緑地課

意見等の内容の取り纏め

事務局による概要説明の後、出席者に意見を求めた。

《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》

1. 計画素案について

事務局より、計画の素案について説明を行った。

【意見等】

〈「みどりの将来像と方針、目標」 目標・指標について〉

・指標①緑地の量の「都市公園として確保すべき緑地の目標水準」について。1人当たり公園面積は重要であるが、生物多様性の保全の観点からネイチャーポジティブの概念である30by30を意識するのであれば、水面を含めてどれくらい緑地量が確保できているのか、指標でなく現状値でも記載してはどうか。

・公園だけでなく、緑地全般に配慮する必要がある、「奈良市のみどりの現況」で30by30を意識しているような記載をしてはどうか。

・公園面積は増やさないということか。

・公園面積を増やすのは難しいという市の実態を踏まえ、課題として触れてもよい。

・指標①緑地の量の「緑視率」について。目標値をすべて「+10%」としている根拠はなにか。一律でなく、みどりが必要な場所かどうかなどを加味した方がよく、現実味がない。

・10%という値が良いか判断しかねる。これを植樹で満たすという考えになるのは違って、量がなくても、例えばならまちに少し花があるだけで心地よいことがある。奈良市は自然の持つ質の高いみどりがあり、人工的なもので増やすのは良くないのではないか。

・滞在快適性という言葉もあり、画一的でない方が良いと思う。数値のわかりやすさを重視するのは危うさがある。

・見た目の量よりも、樹木が丁寧に管理されているように努め、心地よいみどりをつくっていくことを意識してほしい。現在大きく変わりつつある西大寺駅周辺は緑視率の変化に注目する必要があるが、ほかのところは別の考えで見たほうがよい。

・緑視率を指標にするのは良いと思うが、どこを視点場にするかである。緑視率をこれ以上あげていくのが難しい場所については、しっかり維持していくという考えも大事である。現況を見て、明らかに課題である2箇所程度を選び、それぞれに目標を設定してはどうか。

・指標②緑地とのふれあい、指標③みどりを育む活動、指標④みどりの成果について。アンケートによる指標設定であり、「みどり」の受取り手により変わることがあることから、意向調査を行う際にみどりの定義をしっかりと示す必要がある。そうでなければ汎用性の低いデータになる。

〈「将来のみどりの楽しみ方」について〉

・全体について、川など水系に関する扱いが少なく、もっと増やしても良い。

・西部(西部丘陵地域)について。イラストタイトル「里山を楽しむ」でBBQをしているイラストは違和感がある。矢田丘陵での奈良学園の里山づくりのようなものを入れた方がよい。

・中部(奈良盆地地域)について。「大和青垣」は西部にもあり、ここだけ「大和青垣のみどりを愛でる」と使うのはどうか。「みどりと歴史文化を愛でる」にしてはどうか。

・「スポーツを楽しむ」と「地域ルールに基づき公園を楽しむ」のイラストは唐突。高の原地区を言っているのであれば、多世代が交流する点に着目してほしい。

・鴻ノ池運動公園に関する記載と思われるが、みどりのなかでウォーキングやジョギングを楽しむなどがよい。

・イラストタイトルの「みどり豊かな道路環境を整備する」は主体が市民でなく市であり、他の表現が良い(みどり豊かな道路環境で楽しむ、など)。

・東部(大和高原地域)について。イラストタイトルの「里山を観光する」はおかしい。里山は「育む」がベースにあり、観光はなじまない。

〈「計画推進に向けて」について〉

・子どもがみどりから学ぶものは大きい。学校のみどりを学ぶ場とする必要があり、「学」をどこかに入れてほしい。学校であれば行政の「専門的知見の強化」に入るのか。

・小中高程度の「学」は感性を育むうえでも重要である。「市民」か「活動団体」に、研究機関の「学」でなく、教育機関の「学」を入れてはどうか。

・「市民」の「みどりに係る活動」を「みどりに係る活動と学び」にして、小中高等学校を加えてはどうか。

・活動団体に教育機関を入れてはどうか。

・「市民」に記載されている「みどりとふれあう(自宅内でのガーデニング)」とあるが

自宅内は個人レベルの話であり、みどりの基本計画に記載するのであれば、町内での緑化活動などを記載する方が良い。また「みどりとふれあう」より「みどりを育む」が良い。

〈その他(全体を通して)〉

・市民の Well-being への貢献について。Well-being という言葉を最初に使う際は、片仮名のウェルビーイングと併せて記載する方が良い。

・生物多様性の確保について。「生物多様性の確保」という表現はあまりしないので、「生物多様性の保全」とすべきである。

・みどりの定義、みどりの効果について。模式図としてみどりを表現する際は、木一本だけでなく、水も入れてほしい。

・みどりの将来像について。イラスト説明に「教育施設を囲む 生徒による花壇づくり」とあるが、正確には「教育施設を囲む 児童・生徒による花壇づくり」が良い。

・基本方針2「まちの魅力・活力を高めるみどりを豊かにする」について。「歩きたくなるみどり豊かなウォーカブルなまち」のイラストに、車道を車が走っているのは、奈良市にはなじまないのではないか。

・基本施策「多様な生き物の生息・生育環境の保全」について。「生き物」は「いきもの」とする方が良い。

・基本施策「「みち」と「かわ」によるみどりのネットワークの形成」について。平仮名の「かわ」は水の流れをイメージしにくいため、漢字の「川」が良い。

・基本施策「教育委期間と連携したみどりの学び」について。「未来を担う子どもが～まちの誇りをもつことにつながることを期待されます」では受身的であり、もっと主体的に活動するよう意識を育む必要がある。

・全般に子どもに関する記載は受身的であり、担い手になってもらうよう誘導する必要がある。

〈計画全体のデザインについて〉

・表紙のタイトルが見えない。

・表紙の文字はイラストから外した方が良い。

・表紙イラストで、右側を春日山と想定していると思うので、もうすこし緑を多くして木々は原生林をイメージした丸い形のものを配置した方が良い。

・川と森の色合いの違いが分かりにくい。

・西東の山々は、奈良らしさを象徴するものであり、とくに右側の山は春日山らしさを出しほしい。

・文字等について。全体にもっと明るい色を使ってはどうか。

・文字等について。見やすさが重要であり、色合いで見にくいものがあるほか、白抜き文字は見にくい。デザイン、色使いに配慮してほしい。

・文字等について。内容は全体に良くなっているが、色合いによって読めない文字があり、淡いトーンの色は見にくい。色弱の人にも配慮する必要があると思う。

・イラストの緑色と水色の違いがわかりにくい。

- ・イラストの色合いにも拒否感がある。もう少し明るい色が良い。
- ・イラストの色のトーンが落ち着きすぎているように感じる。
- ・写真について。緑化重点地区の春日表参道の写真が他と異なっている。写真は現場感のあるものが良い。